

レジデントのための 血液透析患者マネジメント

門川俊明 著

＜書評者＞ 深川雅史（東海大学教授・腎・内分泌代謝内科学）

現在わが国で透析医療を受けている患者は約 30 万人に達し、新規に導入される患者の高齢化が進んでいる。また、糖尿病を原疾患とする率が高くなってきており、これらのことはほとんどの患者が多臓器の障害を持っていることを意味する。さらに、一昔前には考えられなかったような大手術を透析患者が受ける機会も増えてきており、腎臓内科や透析療法を専門としない医師が主治医になることも多い。彼らは、それぞれの領域の病気の専門家ではあるが、透析をしている患者の特性を理解して、適切に対応しているだろうか？ 実際には、透析室に自らおもむいて、透析担当医と相談することも少ないのかもしれない。

一方、透析は技術的な側面が大きい医療であり、その中にはきち

んとした理論に基づくものだけでなく、経験に基づくものが混在しており、施設による差も大きいのが現状である。さらに、技術の世界は日進月歩であるため、常に注意していないと、その施設のローカルルールが、最新の医療から著しく遅れていることに気付かない場合もある。それでは、透析を担当する医師が、すべてをきちんと理解して指示を出しているのだろうか？ 大学病院のような施設を除いては、通常の指示は臨床工学技士や看護師に任せてしまっていることも多いのではないだろうか。

担当医やスタッフに対して指示を出すにしても、手術直後や患者の状態が変化した際に除水などの透析条件をどう設定するか、抗菌薬などの薬剤の投与量をどう調節

するか、合併症に対してどう対処すべきかなど、理論に裏打ちされた経験が必要である。透析医療のマニュアルはすでに複数出ているが、その多くはコメディカル向けに書かれている。本書は、医学教育に熱心に取り組んでいる著者によって作成されたレジデント向けの小冊子を基にしており、それを理論的に学ぶためのコンパクトな入門書として、若い医師にとって最適と思われる。

なお、透析療法そのものだけでなく、さまざまな異常を持つ透析患者のマネジメントは、内科医にとって応用問題である。そういう意味で、心血管系を中心とする身体所見の取り方と解釈についてもさらに触れてもらえると、より有用なマニュアルになると期待される。

●A5 頁 200 2011 年
定価 2,940 円
(本体 2,800 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01387-1]
医学書院 刊